

## プラスチックストロー規制の現状

### ■規制の動き

・年間 10 億本以上のストローを使用しているアメリカのコーヒーチェーン大手「スターバックス」は 9 日、2020 年までに日本を含む全世界 2 万 8000 以上の店舗で、環境の保全を目的に、プラスチック製ストローの提供をやめると発表した。

プラスチック製のストローをやめる動きは、スターバックスだけでなく、先月にはアメリカのマクドナルドもイギリスとアイルランドの全店舗、約 1400 店舗で、2018 年 9 月から段階的にプラスチック製のストローをやめると発表した。

・テニス・ウィンブルドン選手権でも、現地メディアによると、大会期間中はレストランやカフェなどで使用禁止になっているという。

・世界的な動きとしては、EU が 2021 年までに使い捨てプラスチックを禁止にする方向など、ストローだけではなく使い捨てのプラスチック製品全体の事実上の規制がさらに進むようだ。

### ■実際の被害とは

・まず、脳裏に浮かぶのはウミガメの鼻から捨てられたプラスチックストローを抜く痛々しい映像だ。これまでに 3000 万回以上再生されている。

・アメリカの環境保護団体によると、アメリカ国内での 1 日のストロー消費量は約 5 億本で、そのほとんどがリサイクルされずに捨てられているという。

日本での廃プラスチックのリサイクル率は 84% と高水準だが、世界では年間 800 万トンものプラスチックが海に流れ込み、生き物や環境に被害を与えているという。

・原点に戻って、冷静に考えてみよう。

医療的に必要な人を除けば、ストローがなくても飲み物を飲めるためストローは本当に必要なのか。

リサイクルされないプラスチックごみを排出させてまでストローを使う必要はあるのか。

### ■海外での主な対応

・1 年に 5 億本ものストローが廃棄されるといわれる米国での最近の合言葉は、“No straw, please.”

これまでドリンクと一緒に当然のようについてきたストローを断る活動が全米で拡大中だ。

すでに、カリフォルニア州マリブ市では、今年 2018 年の 6 月 1 日から飲食店でのプラスチック製ストローの提供を禁止。また、シアトル市では今年 7 月 1 日から、プラスチック製ストローだけでなく、ナイフ、フォーク、スプーンなどのプラスチック製カトラリーの提供を禁止している。

表 1

### 海外での主な対応

国や地域	対応内容
米国/英国/カナダ	マイクロビーズの使用禁止
フランス	使い捨てプラスチック製容器の使用禁止
EU	一部プラスチック製品の流通を禁止する措置を提案
インド	使い捨てプラスチック製品を 2020 年までに禁止する方針